

実施報告

小平町立小平小学校

* 学級数 9 * 児童数 84 名

支援員学校名	職名	氏名	専門分野
北海道羽幌高等学校	教諭	宮 川 萌	森林科学

【ねらい】 「流れる水のはたらき」の単位において、実験をとおした理解にとどまらず、実際の川近くにおける土地の利用法を知ることにより、理解を一層深める。

【日 時】 平成29年10月24日（火） 13:25～15:00

【場 所】 小平小学校理科室

【参加者】 児童13名 教員 6 名

【内 容】 「流れる水のはたらき」について

- ・ 実際の川の写真から、河原や川岸の様子を知る。
- ・ 実験装置を用いて、流れる水のはたらきについて理解を深める。



【本事業の成果を活用した授業の改善】

1 教材の提示や活用の仕方の工夫

(1) 地域素材の活用

上空からの映像を用いて「小平薬川」流域の様子を見ることにより、学習への興味・関心を喚起することができた。

また、川の流れに沿ってできた地形が、田畑や住宅地の広がり大きく影響していることを児童自身が見付け出し、学習を実際の環境や生活に結び付けることができた。



2 観察や実験を効果的に行う工夫

(1) 簡易でありながら、優れた実験装置の活用

- ① 発泡スチロールの板の上に布を敷き、その上に砂を敷く。
- ② 川をかたどった型を乗せて、川の両端にさらに砂を乗せる。
- ③ 川の型をはずし、川完成。川のカーブの両端に、まち針を刺す。
- ④ 上流から、ビーカーで静かに水を流す。
- ⑤ 傾斜を変えて水を流す。

理科室の机上で、最小限の砂を利用した実験を行うことで、準備の時間を短縮し、観察や考察の時間を十分に確保することができた。

また、すぐに川ができることで見落とした部分をやり直せたり、まち針を刺すことで変化が見えたりするなど、全ての児童が楽しみながら学習することができた。